

令和2年度 第2回 気仙沼地区教科用図書採択協議会 議事録

○日 時 令和2年7月29日(水)
午後1時15分～午後6時

○場 所 気仙沼中央公民館 第1会議室

○出席委員 委員(会長) 小山 淳 気仙沼市教育委員会教育長
委員(副会長) 齊藤 明 南三陸町教育委員会教育長
委員(監事) 阿部 俊光 南三陸町教育委員会教育総務課長
委員 齋藤 博厚 気仙沼市教育委員会学校教育課長

欠席委員なし

○説明員(代表専門委員)

小山 和彦(大島中学校校長):国語・書写
及川 敦(条南中学校教頭):社会・地図
小松 昭(大谷中学校校長):数学
小野寺 昭人(新月中学校校長):理科
浜田 富美恵(唐桑中学校教諭):音楽
小野寺 順子(唐桑中学校主幹教諭):美術
櫻井 美佐子(志津川中学校教頭):保健体育
菊田 浩文(歌津中学校教諭):技術・家庭
今野 享子(気仙沼中学校校長):英語
佐々木 裕作(入谷小学校校長):特別の教科 道徳
熊谷 利治(九条小学校校長)※欠席のため、亀谷 恭子(新城小学校教諭)

が代理説明

:学校教育法附則第9条の規定による教科用図書

○出席職員(事務局)

事務局員 小野寺 恵美子 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹兼学事係長

1 開 会(午後1時15分開会)(進行:事務局員)

2 挨拶(小山会長)

本日は、いよいよ採択の場を迎えることになる。公平公正に採択をしていきたいと思う。
よろしく申し上げます。

3 会議録署名委員の指名

南三陸町教育委員会 齊藤委員にお願いする。

4 協 議 (議長：小山会長)

(1) 報告第1号 令和3年度使用教科用図書に係る選定審議会答申について

(説明 事務局 小野寺)

- 答申書を読み上げて報告
- 質疑なし
- 承認

(2) 報告第2号 令和3年度使用教科用図書採択調査研究資料について

(説明 事務局 斎藤)

- 本日の日程と時程について説明
- 令和3年度使用教科用図書採択調査研究資料の調査研究について各代表専門委員から別紙調査研究資料のとおり説明。

- 質疑

【学校教育法附則第9条の規定による教科用図書】

- ・小山委員 近頃、普通の教科書はICT化ということで、そういう観点も必要かと思っているが、一般図書の場合は中学生くらいになればもしかしたら有名なソフトがたくさん出ているし、教科書とのからみの記載がどの一般図書にもない。実際はあるものか。
- ・亀谷代表専門委員 「ジャングルのおと」などは音声チップが含まれている。音声教科書というようなものも出されており、目で読むことが難しい子供にとっては音で理解するというようなものもある。
- ・斎藤委員 2ページの「こども ぼうさい・あんぜん絵じてん」についての説明で、しっかり見ていてこの本の良さがわかった。説明の中でこの地域の中でも非常に大切な内容と話していたが、主に避難行動をわかりやすくしているとか、イラストで丁寧な説明などのわかりやすさがある。具体的に子供たちにとって避難行動について、自然災害だとか、恐怖感を感じさせないような工夫がされたような内容か。例えばイラストの登場人物の表情がやわらかな表情だとか、建物が倒れるイラストも抽象的で、恐怖感を感じないような配慮がされているとか、自然災害や事故は、我々でも怖いものがある。そういうような配慮がされているか。
- ・亀谷代表専門委員 イラストは、生々しいものではなくかわいらしいものが使われていたし、自閉症などの子供がそういうイラストに刺激されて気持ちが高まる場合もあるので、やわらかい色使いや、優しい表現を使い、こうすれば大丈夫だよと安心させるような内容になっている。

【国語】

- ・小山委員 まず国語から質問する。教材の選択が非常に大きな要素かと思うが、教材について特に充実感を持った会社というのはどこか。みんな一緒だということであればそれでも良い。

- ・小山代表専門委員 使ってみないとわからないところもあるが、今回の改訂でも、東京書籍が入れ替えた部分が多くなかったの、そのまますんなり入れると思った。気になったのは教育出版のSDGsの視点に基づいていることを全面に押し出しているところが、気仙沼市の教育にもあたると思った。
- ・小山委員 さらに聞くが、習得、活用、探究というような学習活動を、ある程度明確化してやっていくことがこれからの授業では必要だと考えられる。その観点から充実している会社は、挙げられるか。
- ・小山代表専門委員 それぞれそこを意識していると思われるので、特に挙げるのは難しいと思われる。使い慣れている東京書籍だが、内容が豊富過ぎて、先生方と、終わらせるのにいっぱいいっぱいになるのがネックだと話した。
- ・小山委員 さらに、協働的な学習活動も重視されるべき内容と思うが、その充実感についてはどうか。
- ・小山代表専門委員 これも学習の手引きで、各社ともそれを意識して課題等を設定しているので、特にこれはというのを言うのは難しいと思う。
- ・小山委員 ICTデジタル化は全部に共通しているという話だったが、それについての差はないか。
- ・小山代表専門委員 実は内容を見ることができただけではなく、使えるという情報しかない。そこで優劣を付けるのは難しい。

【書写】

- ・齊藤委員 書写について聞くが、書写というところでも字の形、そういうところがあるが各社とも見やすさとか、使われている文字の字体やフォントについて特徴はあったか。
- ・小山代表専門委員 先生方からは、優劣付け難いという意見が出た。
- ・齊藤委員 それはみな同じという意味合いか。それとも微妙に字体が違うイメージだが、優劣を付けるほど、違いは感じられないということか。
- ・小山代表専門委員 付録的な部分で書写ブックや選択課題が多いとか、何度も書けるように書写の教科書に書き込めるような部分があるとか、その程度の違いかと思う。

【社会（地理、歴史、公民）・地図】

- ・小山委員 3分野の教科書を発行している教科書会社のものを総括的に、そうでないものは個別的に全体を対象として質問する。これからの学習、課題解決的な学びの観点が非常に重視されるが、その観点で充実していると特筆できる教科書会社はあるか。
- ・及川代表専門委員 各社、似ていると感じた。特に東京書籍の作り方に、他の会社が寄ってきたような感じを受けた。構成、最初に問いがあり、パッと見て自分一人で主体的にできるような作りになっており、全体的に似ていると、今までの東京書籍の作り方に似ていると感じた。
- ・小山委員 一方では、習得、活用、探究というのが社会科においても、活動としてきちんと整理した状態で、授業で扱っていくことが求められているが、そういう観点から使いやすいと特徴的な教科書会社はあるか。

- ・及川代表専門委員 ずっと使ってきた東京書籍が使いやすいというイメージはあるが、帝国書院は資料活用や表現など、そういう課題が載っており、その教科書に載っている課題がそのまま使えると感じた。
- ・小山委員 協働的な学習活動の充実、それについての差異はなくなってきているのか。
- ・及川代表専門委員 それに関しては、すべての教科書会社が力を入れたところだと思った。
- ・小山委員 地図については色分けが明確にされているように感じた。どちらを選ぶかという問題と感じたがその理解で間違いはないか。
- ・及川代表専門委員 はい。
- ・齊藤委員 東京書籍の「組織と配列に関すること」の記述の○3つ目に『各単元に、課題のまとめ方の例が示され、「5つの提言」の自分の考えを書く活動にも対応している』とう具体的な内容だが、これに尽きるのかと思うがどういった意味で「5つの提言」の自分の考えを書く」というところにつながっていると感じたのか。
- 及川代表専門委員 各単元に表現の課題を設定している。そして単元の1時間ごとに1時間ごとの課題も設定している。それらすべてを通して最終的に教科書にあるようにやっていると、その中に各単元に必ず1つずつ自分の考えを述べる場面が設定してある。教科書のとおりやっていると必ず5つの提言の自分の考えを述べるとか、そういうことが入っている。
- ・齊藤委員 公民的分野の「組織と配列に関すること」の中に、「100時間のうち97時間の配列になっているとか、95時間とか、1番多いので99時間だとかあるようだが、そういった配列、教科書どおりしていくと、100時間の中には全部入るのだと思う。その違いについては、実際授業をされる窮屈さとか、ここの時間の配列についてはどのように考えるか。
- 及川代表専門委員 多少各社違うところはあるが、最後の単元に、だいたいどこの会社もまとめが入っているが、そのまとめで1時間もしくは1時間半必要かもしれないというのがあり、途中で発展的な課題が入ってきて、それを取り扱うとすると、ちょっと増えるというようなどころがある。まとめが少し増えたとしても、最終的には100時間で終わるように作られたと思うので、ゆとりはあると思う。

【数学】

- ・小山委員 これからは探究的な学び、あるいは課題解決的な学びが非常に重視されると思うが、7社の中で、その観点からの充実度で印象深い会社はどこか。
- ・小松代表専門委員 どの会社も、探究的な学習を進められるような課題を設定している。どこが突出してというところはないが、個人的には東書が使いやすいと思う。
- ・小山委員 同様に、習得、活用、探究と学習活動を明確化して子供たちにトライをさせていくというのが重視されると思うが、そういう指導をするうえで、使いやすいと感じる教科書はあったか。
- ・小松代表専門委員 どこも同じような内容になっているが、言葉の使い方とかそういったところを見たときに、使い慣れている東書が使いやすいと感じる。
- ・小山委員 協働的な学びについてはどうか。どこの会社も力を入れているところだと思うがその中でも印象深いものはあるか。

- ・小松代表専門委員 どの会社も工夫されているが、東書は、桜の開花日を予想させるようなデータを使うなど、身近にあるようなもので、話し合いをしながらできるところを散見できた。だが、ほかの会社もそういうところは提示されている。
- ・小山委員 デジタル化というのも昨今重視されていると思うが、その部分は教科書から読み取れる部分はないのか。デジタル化が特に進んでいるというのは見えないのか。
- ・小松代表専門委員 どの会社にもQRコードのようなものがあり、そこで見たが、ここが特別だというのは、わからなかった。
- ・齊藤委員 学習指導要領に則り、去年は小学校、今年は中学校だが、説明の中に小学校との接続を意識した教科書や、高校までということ、小学校は中学校を意識して、中学校は小学校を意識する形で学習を進めていくことが、これまでの教科書から変わったと感じる。そういった意味で充実しているところはあるか。
- ・小松代表専門委員 甲乙付け難く、書きぶりなどもあると思うが、使い慣れているとなると東書になる。だが、どの会社も、最後の巻末などに前学年で学んだことと今年学んだことを関連付けるようなことが羅列されていると感じた。

【理科】

- ・小山委員 理科であるので、探究的な学びが命であるので、探究学習の面から充実度として際立った会社はあるか。
- ・小野寺代表専門委員 探究の課程で5社を比較したときに、東書と啓林館が問題解決の課程においては、子供たちが捉えやすいと感じた。
- ・小山委員 これからの学びでは、習得、活用、探究、学習活動を明確化していくことが大切だと言われており、どの教科書会社も取り組んでいるのだと思うが、指導するうえで使いやすいと感じるものに差は無いか。
- ・小野寺代表専門委員 それぞれの会社で、習得や活用に関して、意識的に項目を作っているが、内容的に簡単で物足りなさを感じるものもあった。
- ・小山委員 もう1つは協働的な学習、これも会社では力を入れている部分だと思うが、その充実度に関してはどうか。
- ・小野寺代表専門委員 どの会社も、話し合いを深めようとしているので、あとは授業者の設定の仕方の影響があるかと思う。
- ・小山委員 差が無いというのも重要な調査結果だと思う。あとは中身についてだが、東書のビフォーアフターが何回も出てくる。単元の冒頭と終末の部分のつながりをさせているという意味だと思うが、これは他社でもあります。同じですか。
- ・小野寺代表専門委員 かなり似通っている。特徴的なのは、学校図書のCAN-DOリストが示されているのが他社とは違うと感じた。
- ・小山委員 その有効性についてはどう感じたか。
- ・小野寺代表専門委員 これは慣れなのかもしれないが、CAN-DOリストは教科書ではない、別なところであって欲しいなと感じた。わたしが授業をするならば、教科書には書かずに自分の学習を記録するものにCAN-DOリストを授業者が工夫して載せる、設定するのが望ましいと思う。

- ・齊藤委員 先ほど習得に関する質問があったが、実験だとか机に置くとか、そういうときに、理科は教科書のサイズがばらついているという印象がある。内容的に学びの流れであったり図表等が豊富であったり、使いやすい横長や縦長が思うが、机に置いたり、広げたり、実験の時など使いやすいサイズだと印象のあるものはあるか。
- ・小野寺代表専門委員 1つは授業のときに、実験のときというのであれば、縦長の方が使いやすい。実験の順番が縦に一直線に並んでいるので、横の幅を使ってしまうと、実験の順番が横にいつ縦にいつ横にいつとなると子供によっては、どの順番かわからなくなる。東書の縦に並ぶというのは斬新だと感じる。ただ、横は横で良いところがあって、同じ写真を3つ並べるなどの場合は、横長の方が、これがこうなってこうなるというような読み物的には、横長の方が良いと感じた。横の方が比べやすい。分布図や分類は横幅があった方が見やすいと思う。
実験・観察を中心と考えるのであれば縦を使ってみたいと感じた。

【英語】

- ・小山委員 英語の教科書の一つの生命線が、教材の豊かさになると考えているが、その観点から充実度を見た場合に、差があれば教えていただきたい。
- ・今野代表専門委員 どの教科書もSDGsの17の項目を意識して豊かな題材を幅広く取り上げていると思う。SDGsの観点から申し上げると、東書が17の目標を非常に強く出していた。啓林館は、グローバル化社会をすごく打ち出しており、SDGsと関連させているところにマークを付けていた。どの教科書も豊かな幅広い教材であると思った。
- ・小山委員 同様に英語指導は確立された方法論、アクティビティがあるわけではないことから、アクティビティの導入のしやすさが重要な観点になるのかと思うが、その観点からの充実度として、何か特筆すべきものがあれば教えてほしい。
- ・今野代表専門委員 どの教科書も場面設定を大事にパフォーマンスで、子供たちが発表しやすいような場面設定を徐々に広げられるようにしていると思った。
- ・小山委員 文法ではどうか。
- ・今野代表専門委員 文法においても、コーナーの名称は各教科書によって違うが、どこの教科書も同じだと思う。CAN-DOリストに基づいて目標が定められると思う。
- ・小山委員 気になったのが東書の「学習と指導に関すること」で、「パフォーマンス評価を行うことができるように配慮されている」とあるが、特に話すことという面では、これはどういう配慮か。5段階など最初から作られているということか。他は違うのか。
- ・今野代表専門委員 他にもあるが、特に東書が全体的なCAN-DOリストと各学年のCAN-DOリストに基づいていた。
- ・小山委員 CAN-DOリストに基づいてパフォーマンステストや評価を実施し、容易にしやすくなったということがわかりました。
- ・齊藤委員 小学校との関連ということについても取り入れて進めている。資料の4番目のところ、書くときの4線の扱い、第2線と第3線の間隔について述べられているが、手書きで書いたときには、2と3の間が少し幅広い方が書きやすい、小学校でも書きやすく書いている。具体的に6社のうち、3社についてはこの点について記述されているが、他の3

社はどうだったのかということと、読んだ中では、東書は全ての学年で2線と3線の間が広く書きやすさが出ているし、三省堂、啓林館については1年生が導入期になっているようだ。その文字の書きようについての期間など、各教科書会社によって違いがあるのか。それとも同じように配慮されているのか。

- ・今野代表専門委員 各社共通に手書きのものから、社会全体で見られるような、外部の試験で出てくるような字体に少しずつ移行していると捉えている。幅については、齊藤教育長が話されたように捉えている。なるべくギャップが少なくということで、どの会社も導入期の線については配慮されているが、それが3年生まで続くというようなことについてはお話できない。
- ・齊藤委員 東書だと、各学年共にという表現なので、「また」と文章が変わったところまで、各学年ともそうなのかなというイメージでいくのか、それとも各学年はあくまでも前の文章だけで「また」の部分はあくまでも1年生の導入期において、小文字が書きやすいよう配慮されているということになるのか。
- ・今野代表専門委員 そのように調査した。1年生から徐々に書体が普通に使われている書体になっていき、この4線については1年生だけの入門期のところというように調査した。

【音楽】

- ・小山委員 音楽でも深い学びの観点から、習得と活用と探究というか総合的な表現ということになるのかもしれないが、ある程度明確化した授業展開というのが求められていると思う。その観点から、2社のその充実度について聞きたい。
- ・浜田代表専門委員 ここ20年ぐらいは教育芸術社を使用している。教育芸術社の方が使いやすさや、楽譜を開いたときの中身のわかりやすさの面で良いと思う。
- ・小山委員 協働的な学びに関しては、どちらも充実度としては同様か。
- ・浜田代表専門委員 協働的な学びということで、以前からグループ活動や鑑賞での調べ学習など、どちらの会社も同じように取り扱っている。しかし、ヒントの出し方や興味関心のポイントの示し方で若干差があるかと思う。
- ・小山委員 特に器楽合奏の方で、今聞いた部分が際立つのかなというふうに思う。今のお話は総合的に考えてということの良いか。
- ・浜田代表専門委員 はい。
- ・齊藤委員 「学習と指導に関すること」の項目だが、両方とも学習指導要領に則ったもので、検定教科書でもあるので、大きな違いはないと思うが、教芸の方の「学習と指導に関すること」の4つ目の○、「社会的情勢や歴史、国際理解や環境、人権問題、震災復興支援などにも関連した幅広い教材を扱っている。また、生徒の心情に迫る選曲やコラムなど道徳的視点についても配慮されている。」と記述されているが、すごく特徴的な内容が書かれてあるような気がする。これは単元からすると、発展的な内容という意味なのか、教えていただきたい。
- ・浜田代表専門委員 こういったところは、共通教材からは離れるところになるので、それプラス付随するところになると思う。特に合唱曲の部分になってくるかと思うが、それぞれの会社の選曲の違いが出てくるので、特に震災復興関連については、有名な「花は咲く」

や「明日という日が」にそういったところでの取扱いの違いが見受けられたと思う。

- ・齊藤委員 人権問題も中にあるのか。
- ・浜田代表専門委員 今まで教芸を使用してきた中で、黒人霊歌だとか、そういったところで人種的な部分、海外の作品だとか教出もまんべんなく取り扱っている。使い慣れているところもあるが、歴史的な部分だとかに触れた楽曲が取り入れられていると思われる。

【美術】

- ・小山委員 実技を伴う教科ということで、その場合には習得と活用と一般的には探究というか、総合的な表現になるのかもしれないが、その指導をある程度明確化することが重要視されていると思う。その観点から指導のしやすさ、あるいは充実度といったときに、特筆すべきものはあるか。
- ・小野寺代表専門委員 3社ともそれぞれの特性があり、素晴らしい教科書であるが、個人的に話させてもらおうと、どうしても美術の教科の特性で今まで教科書と資料集という別冊教材を必ず取り扱うというのが、長年やってきている状況である。実際現場で使うとなったときに、こちらも開きこちらも開きさらに活動となると、個人的な意見だが、教科書がより資料的要素も含まれて簡潔にまとまっているという部分では、光村図書の教科書が使いやすいと見受けられた。
- ・小山委員 開隆堂にも光村図書にもおそらくそういう段階的な指導、そういう部分が強調されている要素を読み取ることができる。一方では3社とも、発展的な学びと一般の教科では言うが、そのこの部分の記載がよく見えなかった。そういう取扱いについてはどうか。
- ・小野寺代表専門委員 資料の中にもいろいろ掲載されていたが、発展的な部分については、図画工作を基本としつつ、美術科へ移行する際に、主体的で対話的深い学びにつながるような資料提示という部分で、目標をしっかり明記している。造形的な視点を与えて、その視点を変えることによってどのような印象が変わるだろうかというようなポイントを押さえていたのは光村図書であった。その中で子供たちがより、教材を自分自身の中で捉えて対話を生かしながら他者の意見を取り入れつつ、深めていく発展的なものになっていると感じた。
- ・齊藤委員 作品を作っていくときには、それなりのテクニックというのが必要だと思うが、それよりも、わたし自身大切にしたいのは、発想や構想、その作品を作ろうとすることがなければ、自分の作品というのは、作り上げるのが難しいと思う。そういった発想や構想を高めていく視点で3社を比べたときに、発想力が高められそうなところはあったか。
- ・小野寺代表専門委員 どうしても中学生になると、自我の芽生えと思春期ということもあり、自分が今まで何気なく描いたり作っていたものが、周りからどういうふうに見られるか、とても気になる3年間だ。その中でも段階を追い、発想構想の段階でつまづく生徒がたくさん出てくる。そうなったときに、教科書を使って自分自身が授業展開する際に、光村図書の発想を広げるページで、実際の作家が発想を膨らます手立てを紹介している。どんな方法を行うのか、具体例だけでなく、写真にも掲載され、さらに文章による補足説明もある。捉え方が目に入るだけでなく文章でも入ってくるため、子供たちには提示もしやすい。ま

た作品の掲載が、難しいものではなく、子供たちの発達段階に合わせた作品掲載が、適切であることから光村図書が優れていると感じた。扱いやすさや発想のところで、風景画を描く場合に、4段階程度の写真を掲載して、全く別な生徒が描いたものを、2パターン並べて制作手順での工夫を、実際に教科書に載せている。驚きと共に自分自身にも学びのある教科書というのを光村図書に感じた。

【保健体育】

- ・小山委員 初歩的な質問だが、保健体育は体育の実技の記載もあるのか。
- ・櫻井代表専門委員 教科書には、実習については載っているが、ほとんどが保健に関する学習の内容で、副読本を使って技能の方は学習している。
- ・小山委員 実技関係の分は、ほとんど無いと考えてよいか。
- ・櫻井代表専門委員 はい。体育理論という分野もあり、それは教科書に入っている。
- ・小山委員 保健分野であれば特に、課題解決的な学びというのが、重視をされ、別な言い方をすれば探究的な学びということになり、全ての教科書会社にその内容の記載があるが、課題解決的な学びの面で、充実度が高いと感じる特筆すべきものがあれば教えてほしい。もちろん無いというのも立派な調査結果なので、それを含めて差はない、あるいは充実度が高いという業者はあるか。
- ・櫻井代表専門委員 グループで話し合いを持ったときに、東京書籍の教科書は、今日的な健康課題を扱う資料を豊富に掲載していると感じた。資料のわかりやすさや、課題解決的な設問について、東京書籍が良いと感じた。
- ・小山委員 これからの学びで必要な授業の展開で必要になるのが、習得、活用、探究、をある程度しっかりと色分けをして指導するということが求められていると思うが、そういう指導の上での充実度、使いやすさはどうか。差はあるか、無いか。
- ・櫻井代表専門委員 どの教科書会社もデジタル教材の活用について、QRコードからどんどん入って行って、例えばシミュレーションができるものがあるが、全部の会社のQRコードを読み取って、実際に確認してみたところ、自身の動画をしっかり作って、たくさんのコンテンツを作っていたのが東京書籍だった。あとはアプリを入れないと読めなかったり、ただウェブサイトに行って関連する厚生労働省のページに飛んだりなど、そのようなことが他の会社ではあるので、深い学びのところに持っていくために、そのデジタルコンテンツをうまく活用しながら、話し合いに持って行ったりすることが出来るのは東京書籍のDマークコンテンツだった。
- ・小山委員 これからのことを考えると、実技でも習得と活用と探究をしっかりと分けてやるのが重要だと思うが、今回実技は違うということだそうなので、そうすると保健分野を主としての今のような違いは感じられるという認識でよろしいか。
- ・櫻井代表専門委員 はい。
- ・齊藤委員 健康な生活、さらには生涯豊かな生涯スポーツ等を考えていくと、地域ということも大切なことで、学ぶ内容だと思うが、この4社の中で東京書籍には具体的に気仙沼や南三陸の地域を愛する態度を養うことができるような内容があるだとか、宮城県の事例があるという具体的な内容があったが、他の教科書にも宮城県や地域なども取り上げられて

いたか。取り上げてなかったか。

- ・櫻井代表専門委員 防災学習について、東京書籍は歌津中学校が写真などで掲載されていたが、他の教科書をくまなく見たわけではないが、仙台市の取り組みが載った教科書もあった。子供たちが地域に出向いている方々と交流して、いろんな発見をしていくというような写真が、東京書籍には多いと感じた。志教育の面からも東京書籍が適していると感じた。

【技術・家庭】

- ・小山委員 技術分野と家庭分野というのは、教科書は同一である方がいいのか。
- ・菊田代表専門委員 わたしは、技術分野も家庭分野も両方指導している。その中で、例えば技術はA社、家庭はB社となった場合に、今説明したように各社、教科書の表記、例えば最初の課題、目安であるとか目標とか、細かく書いているところもあるし、大きく書いているところもある。個人的に授業をするときに、授業を組み立てていくうえで、課題は教科書のここだとやっていくときに、技術と家庭科は違う書き方というような考え方でいくと個人的には同じ会社の方がやりやすいと感じる。
- ・小山委員 それは当然生徒自身の問題にもなるわけですね。それが大前提になると考えた方がよいということですね。そのうえで3社について、基本的にはセットのような考え方にたつことになるかもしれないが、まず、課題解決的な学び、これからの学習で、まさに肝の部分、別な言い方をすれば探究的な学びになるかと思うが、その充実度はどうか。
- ・菊田代表専門委員 3社を比較していく中で、課題解決型という部分の中では、基礎基本的な課題解決型、発展的なものについての課題解決、深める部分での課題解決と段階を踏まえていったときに、東京書籍については、基礎基本、発展、探究という形で、すごく段階をあげていくところを感じている。そして教育図書社については、教育課程が変わっていく中で、個人的にはやってほしい製作とかそういった題材を多く取り入れている。ただ多く取り入れているが、授業を進めていく中では、やる内容よりも、実践の方に重きを置いているという部分を教育図書社には感じる。時数がたくさんある場合はこの教科書を活用できていいだろうと思うが、そういう部分で探究や課題解決をやっていく場合は、中身が製作実践の方に重きがあると思う。開隆堂については、基礎基本を大事にし、そこから発展という形をつなげていっている。発展からさらにという部分では、東京書籍の方が上に上となり、生徒の実態を考えていったときに、ここまで必要かと感じる。
- ・小山委員 どちらの分野も実技を伴うので、実技を伴う教科における深い学びとしては、習得とそれを活用する場面、さらにそれを生かして探究する場面と、習得、活用、探究と指導者がある程度明確化して、授業実践を行うということも、重視されている。その観点からの充実度はどうか。
- ・菊田代表専門委員 個人的な考え方では、開隆堂は子供たちの実態に沿って発展させられるやりやすさを感じる。個人的にやりやすいからこの教科書ということではなく、東京書籍は基礎、発展、深まりという中で、同じスパンの中でやるとしたら3つを全部やっというとなれば、基礎基本はこれくらいとある程度制限される。それが、開隆堂は基礎基本をしっかりと押さえた上で発展、そこから深めていく。

- ・小山委員 協働的な学習活動については、これからの重点の1つであるが、差異は感じられるか。
- ・菊田代表専門委員 ないと感じる。
- ・小山委員 あと、記載の中で、技術分野の方の東京書籍と教育図書には「学習と指導に関すること」にデジタルコンテンツ等について一切記載がないが、これは差があるということか。
- ・菊田代表専門委員 教科書を見たときに、どちらもデジタルコンテンツのQRコード等は付いている。開隆堂の方が、コンテンツが細かく多い印象があったのでそこに書いている。
- ・小山委員 今聞いた部分は、これからの学びにおいて、次年度から始まる次期の学習指導要領のメインの部分であり重要である。わたしの印象でいうと、基礎基本を大切にすることと、発展的なことを大切にすることとは指導者によって違いは出てこないか。
- ・菊田代表専門委員 もちろん出てくる。目指すところの中で、子供たちに発展的な部分からさらに探究できるところまでというような部分で考えている先生もいる。内容でどの辺に比重を置くか、全部をこなすがどこに比重を置いてやっていくか、そういった部分は出てくると思う。
- ・小山委員 実践重視を好むケースもある。なかなか難しいと思って聞いていた。
- ・菊田代表専門委員 新指導要領では、今までのような製作に時間をかけることはできないという話が前から出ている。我々としては、本来実践を多く取り入れていきたいがなかなか難しい。教科書の中で、実践材料が多くていいが、そちらの方にはなかなか今までのように時間をかけられないという難しさはあると思う。
- ・齊藤委員 技術と家庭科の目標が明確に手元にはないが、目標というのは、最終的には自分の生活をより良くしていこうとか、そういう生活のより高みを目指していくような目標ではないかという思いでいるが、そうなのか、そうではないのか。
- ・菊田代表専門委員 新指導要領では、最終的には個人的には求めているものは、今までと変わりはないと思っている。

【特別の教科 道徳】

- ・小山委員 これからの特別の教科・道徳において重要と考えられる観点で、充実度をお聞きしたい。もちろん甲乙付け難い、差がないというのも立派な調査結果だと思いますので、そのことも含めて充実度についてお聞きしたい。
まず一つ、重要になるのが教材の豊かさという観点であると思いますが、この観点からはどうですか。
- ・佐々木代表専門委員 いくつかの同じような教材が用いられている場合がありますして、世界で活躍している人を扱ったり、目標になる自分の最も将来の姿に照らし合わせて考えられるような人物を選んでいる内容が多いと感じた。これもどの教科書にも入っておりまして、ノーベル賞を受賞した方、プロ野球選手、パラアスリートであったりとか、そういうのを中学校は厚めにとり扱っていると感じた。
- ・小山委員 そうするとその点に関しては、甲乙つけ難いですか。
- ・佐々木代表専門委員 そうですね。

- ・小山委員 二つ目、道徳の場合には、課題解決型というよりは問題解決型というべきだと思うが、その学習について全てこの資料に示していただいています、その充実度については、どのように見られましたか。
- ・佐々木代表専門委員 学習の進め方は、どの教科書もある程度同じように、こういう順番で進める。こういう発問でやるときですよと小学校の道徳と同じように丁寧に進め方が書いてあり、その教科書を見ながら進めていくという点では、どこもきちんと進め方がある程度示されているので、使いやすくなっている。ただ、発問等については、どの教科書も実態が違ってくるので、発問も違ってくるし、何を考えさせたいかで変わってくるので、その辺はそのまま使うのは難しいと思った。
- ・小山委員 そこでもそれほど差はつけられないですか。
- ・佐々木代表専門委員 そうですね。その資料を担当がどう使うかが大事です。
- ・小山委員 了解です。あとは「自分ごと」という表現が何度も先生から出ておりました。自分ごととする上での工夫、そういう観点からの結果はどうですか
- ・佐々木代表専門委員 一つの題材を複数時間で扱うというのがある。1時間目は教科書の教材をもとに学習し、2時間目がそれを基に話し合うというように複数時間に扱うというのが何社かあった。個人的には1単位時間1教材がいいと思う。
- ・小山委員 わかりました。そういう意味では主にむしろ使いにくいかもしれないですね。
- ・佐々木代表専門委員 そうですね。それを補う部分で補助教材を使用する場合があります。2時間扱いですが1時間で扱っていいですよ、その分補助教材を扱ってくださいという教科書もあった。
- ・小山委員 あとは最後の観点としてはやっぱり協働的な学びという観点になると思います。
- ・佐々木代表専門委員 東書が工夫されていると感じたところがありました。小学校では心情円を使うんです。心情円といって2色の円があり、切り込みが入って重ねるんですね。今はどっちの気持ちが強いかと示すものが教科書に付いている。
また、ホワイトボード用紙に自分たちで描きながら話を深めていくというような工夫や道徳ノートを使ったものもある。2社には別冊があり、こちらを使用する先生もいるのかなとは思った。
- ・小山委員 あと資料にもありますけれどもP4Cとかはどうですか。
- ・佐々木代表専門委員 そうですね。東京書籍の方にはもう載っていた。学級経営の進め方もあった。
- ・齊藤委員 特別の教科・道徳になった理由の大きなものには、いじめ問題等をしっかりとさらに確実にってところが一つの要因にある。そういったいじめ等の中で、SNSの関係をしっかりと指導することが大切だと思う。すべての教科書で会社ではそれを取り上げ情報モラル関係はしっかり押さえている印象か。
- ・佐々木代表専門委員 はい。情報に関してはどこも入っていた。漫画を用いているところが多く、より身近に感じさせようとしていると思う。

【学校教育法附則第9条の規定による教科用図書】

質疑はなし。

《記録欠落》

※ 議案第1号以降に係る議事録については、各代表委員のヒアリングを行ったのち、協議会を再開する際に音声データを録音し忘れたため、これ以降の議事録を作成することができなかった。

【記録欠落箇所】

- (3) 議案第1号 令和3年度使用教科用図書採択について
- (4) その他
 - ① 令和3年度負担金について
- 5 閉会挨拶（齊藤副会長）
- 6 閉会（午後6時）

上記記録の正確なるを認め、ここに署名する。

令和2年7月29日

会議録署名委員 齊藤 明

